

令和3年度 第5回千曲市自転車活用推進計画検討委員会 会議録概要

- 開催日時 令和3年10月27日(水) 午前10時00分～午前11時30分
- 開催場所 千曲市役所 3階 301 会議室A
- 出席者 委員：11名(欠席者2名)
アドバイザー：1名(国土交通省長野国道事務所 交通対策課長)
事務局：5名(建設部長、建設課長、建設係長、建設係1名、日本
海コンサルタント1名)
、 関係部局：2名(総合政策課長、政策推進係長)

1 開 会
建設課長

2 あいさつ
[質疑応答]

委員長(若林)

新型コロナの感染拡大により社会生活が大きく変化した。今朝も6時前から千曲川サイクリングロードを走行しているサイクリストがおり、コロナ禍でサイクリングの愛好者が増えていることを実感している。今後の観光に関しては、集団での忘年会や新年会は復活していかないのではと感じている。観光バスで団体移動することも少なくなり、公共交通機関や自転車で周遊する方が増えていくのではないかと感じている。

今年の3月に千曲市自転車活用推進計画をまとめ、半年が経ち、シェアサイクルの社会実験、サイクリングクエストの実施などの施策を実施いただいている。シェアサイクルの会員登録をすると、アプリの地図で各サイクルポートに何台あるのかがわかり、シェアサイクルの利用者がどのように移動したのかを推測できるため、面白い仕組みだと感じている。

今回の委員会では、事務局から資料についてご報告いただき、皆様からご意見をいただければと考えている。

事務局(湯本)

自転車の活用については、国が平成29年に自転車活用推進法を施行し、自転車活用推進計画の策定、ナショナルサイクリングルートの指定などのように、関係機関が連携して自転車施策に取り組んでいる。当市でも、3月に千曲市自転車活用推進計画を策定(改訂)しており、今後は計画に位置付けた施策を推進し、自転車の利用環境向上を図っていきたいと考えている。

3 会議事項

(1) 千曲市自転車活用推進計画の進捗状況

○資料1～3について説明

[質疑応答]

委員（梶）

科野さらしなの里サイクリング推進委員会では、7月22日～10月17日にかけてチクマサイクリングクエストを実施した。目標参加者数は1,000人としていたが、仕組みがなかなか難しかったようで、利用が伸び悩んだ。実施に際して、様々な面でご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。また、しなの鉄道の戸倉駅では、バッチの配布などにご協力いただき、重ねて感謝申し上げます。

このような企画を行っていることで、メディアからの取材も多く、シェアサイクルとも連携して24時間テレビなどでもPRすることができた。また、千曲ケーブルテレビでは、レッツゴーサイクリングという企画をいただき、千曲市のサイクリングコースを紹介している。9月は稲荷山界隈が放送され、現在は森界隈が放送されている。11月は温泉街から天狗公園コース、力石コースなどを紹介する予定である。

サイクリストとしては、いろいろな面で自転車に関する取組が動き出したと感じており、今後ともご協力をお願いしたい。

委員（日高）

警察から交通安全に関する取組を紹介する。屋代駅から市役所間を千曲署の自転車指導啓発路線として指定している。戸倉上山田中やしなの鉄道駅の駐輪場では、チラシを配布しているところである。

今年の事故の状況であるが、10月に入り中学生が通学時に骨折する事故が発生した。事故も中学生や高校生が多いため、学校での出前講座などにより安全意識の向上を図っていきたい。

委員長（若林）

特に意見がなければ、計画のフォローアップ結果についてはご了解いただいたということで、市のホームページ等一般に公開させていただきたい。

(2) 上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験の実施状況

○資料4について説明

[質疑応答]

委員長（若林）

広島のホテルには、各ホテルに2～3台ずつシェアサイクルが設置されているようである。一度登録すれば、いろいろな利用方法が可能となり、全国でも使うことができるため、是非皆さんも利用いただきたい。

(3) 令和3年度における自転車通行空間整備方針（案）

○資料5について説明

[質疑応答]

事務局（北村） 次年度は、稲荷山周辺の更埴西中周辺において、500m程度の整備を検討している。国や県の整備予定についても情報提供いただきたい。

委員（岩松） 今年度、県では一般県道上田千曲長野自転車道の舗装工事を行い、10月に完成している。今後は、国道403号に矢羽根路面表示を検討していく予定である。

アドバイザー（大島） 千曲市自転車活用推進計画では、国道18号、更埴バイパスが日常利用路線として位置付けられている。当該路線は、自動車の交通量が多く、速度も速いため、自転車道を整備することになるが、現状は道路空間に余裕がないため、自転車通行帯での整備が可能かを検討している。今後は交差点部も含めて、整備が可能かを検討したいと考えている。

一方、自転車は車道通行が原則とは理解しているものの、路肩も狭いため、車道を通行させるべきか悩んでいるところでもあり、その点も含めて検討しているところである。

委員長（若林） 計画に整備の目標延長が設定されているため、粛々と事業を進めていただきたい。

(4) その他（委員からの活動報告・情報共有など）

○資料6について説明

[質疑応答]

委員（吉池） コロナ禍であったため、小学校では、学校主体の交通安全教室を開催できなかった。自転車を使い始める子どもたちが、自転車のルールやマナーを知る必要があるため、家庭とも連携して、交通安全教育を行っていきたい。また、公道で自転車ルールを学べるようになればと考えている。

委員（宮原） 戸倉駅、屋代駅にもサイクルポートが設置されており、観光客からどこにサイクルポートがあるのかを聞かれたことはあるものの、シェアサイクルの使い方について聞かれることはないようである。

しなの鉄道もコロナの影響が深刻で、定期外の利用は半分にまで減っている。通勤通学利用も、9割まで戻っていない状況である。日本人の観光客も車での移動が多くなっており、そのような中で、鉄道としても自転車利用は一筋の光とも感じている。鉄道は広告媒体としての役割もあるため、事務局から要望

があれば検討させていただきたいと考えている。

委員（上水）

千曲市の路線バスで、屋代駅前や戸倉駅前などを周遊していると、シェアサイクルをよく見かけ、うまく使われていると感じている。シェアサイクルのサイクルポートがもっと多くあれば、より利用しやすくなるのではないかと感じている。

委員（梶）

今年、東京オリンピックがあり、はじめて観る自転車競技もあった。千曲川サイクリングロードなどを整備いただいているが、それ以外でも、MTBなどで若者や子供たちが楽しむことができるオフロードコースが、大池キャンプ場などにできれば良いのではないかと感じている。

委員（林）

シェアサイクルの利用実績が増えていることは良い傾向であるが、今後市民にも更に周知いただきたい。どんな方がどのように利用しているのかが分かると、利用促進策の検討に使えるのではないかと。

資料5では、矢羽根を設置するということであるが、矢羽根は自転車が通行する場所であるという事が認知されていない。矢羽根ではなく、自転車を通行する部分をすべて青色に塗ることで、わかりやすくなるのではないかと。

事務局（北村）

オフロードコースについては、河川敷やキャンプ場などで可能性を検討したい。

アドバイザー（大島）

国土交通省と警察庁で、安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインを策定しており、自転車道や自転車通行帯の幅員がとれる場合は、ベタ塗りにしており、混在型であれば、矢羽根を使用することになっている。

事務局（中野）

利用者の年齢、居住地などについては、利用者アンケート調査を実施しており、これらの結果も踏まえた改善策を検討していきたい。

4 閉 会
建設課長

以上